

農政の動き 3月3日～3月7日

◎輸入小麦の売り渡し価格 3.5%引き上げ

農林水産省は、2018年4～9月の輸入小麦の政府売り渡し価格を17年10月～18年3月に比べ、主要5銘柄平均で3.5%引き上げると発表した。引き上げは3期連続。小麦価格の上昇や海上運賃の引き上げなどが要因で、5銘柄の平均価格はトン当たり5万4370円となった。(6日)

◎新燃岳が7年ぶり爆発的噴火

気象庁は、宮崎と鹿児島県の県境にある新燃岳で爆発的噴火が起きたと発表した。爆発的噴火は2011年3月以来、7年ぶり。周辺市町村では降灰が確認され、農作物への影響も心配されている。(6日)

◎農業法人協会が女性活躍102経営体を認定

日本農業法人協会は、「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」の表彰式を東京都内で開いた。女性の活躍推進へ、先進的な取り組みの横展開を図ることなどが目的で、最終年度となる2017年度は42経営体を認定、3年間の認定数は計102経営体となった。同協会の山田敏之会長は「女性の力なくして、今後の農業経営は成り立たない。次に続く人の見本となってほしい」とあいさつした。(6日)

◎米政策見直して農相「戦略作物の支援継続」

齋藤健農相は、衆院農林水産委員会で所信表明を行い、「農林水産業の成長産業化と農林漁業者の所得向上を実現する」と強調した。重点課題には①農地の集積・集約化の加速化②担い手の育成・確保③農薬規制の見直し④卸売市場の見直しを含む流通の合理化——などを列挙。18年産からの米政策の見直しでは、戦略作物への支援の継続を通じて需要に応じた生産を後押しすると訴えた。(7日)

◎新JASに二つの機能性成分規格が決定

農林水産省は農林物資規格調査会を開き、新たにべにふうき緑茶の機能性成分「メチル化カテキン」を保証するJAS規格(日本農林規格)の導入を決めた。温州ミカンの「βクリプトキサンチン」の保証規格も制定する。規格の対象拡大を可能にした改正JAS法に基づく対応で、導入が決まっている切り花の日持ち生産管理の規格を含め、来年度から実施する。規格を満たせばJASマークを付けて販売でき、流通業者などにアピールしやすくなる。(7日)